

東京大学大学院教育学研究科・学校教育高度化センター
シンポジウム(2012年9月29日:東京大学福武ホール)

社会に生きる学力形成をめざした
カリキュラム・イノベーション
—具体的な実践の提案—

カリキュラム・イノベーションによって何を
めざすのか

—本日の報告の位置づけと、
それへのコメント—

小玉 重夫

イノベーションとは

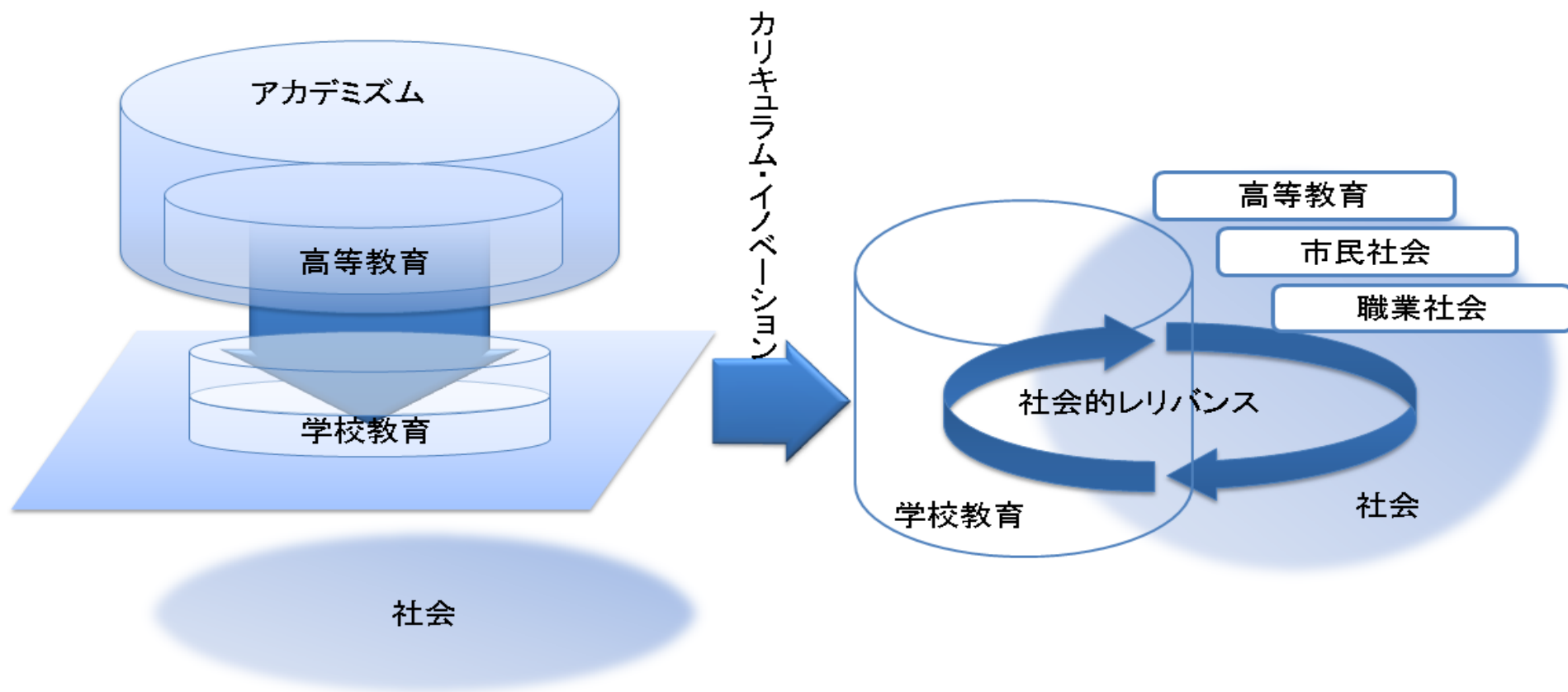
- * シュンペーター (Schumpeter, 1883-1950) から、ドラッカー (Drucker, 1909-2005) にいたる、(広い意味での) オーストリア学派の系譜において、組織の革新を意味する概念として用いられてきた。特に、後期近代社会ではイデオロギーにもとづく社会変革とは異なる形での変革、「新しい価値を打ち立てる」、「これまでのやり方をガラリと変え、新しい何かを始める」という意味で用いられている (岩崎 2009: 143)。

何をイノベーションするのか

- * カリキュラムをめぐる伝統的な2項対立
- * 「文化遺産の伝達を重視する本質主義 (essentialism)」vs 「子どもの経験と関心を重視する進歩主義 (progressivism)」(山崎2009:26)
- * 「教師の実践に先行する教育内容の組織としてのカリキュラム」vs 「学びの経験の総体としてのカリキュラム」(佐藤2006:68)
- * 「目標に応じて教育内容と教材選択を計画する工学的アプローチ」vs 「教育内容の即興性を重視する羅生門アプローチ」(船橋2009:113-115)

カリキュラム・イノベーションへ向けて(東京大学教育学部学校教育高度化センターHPより)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~c-kodoka/project/kakenkibanA.htm>



イノベーションの視点

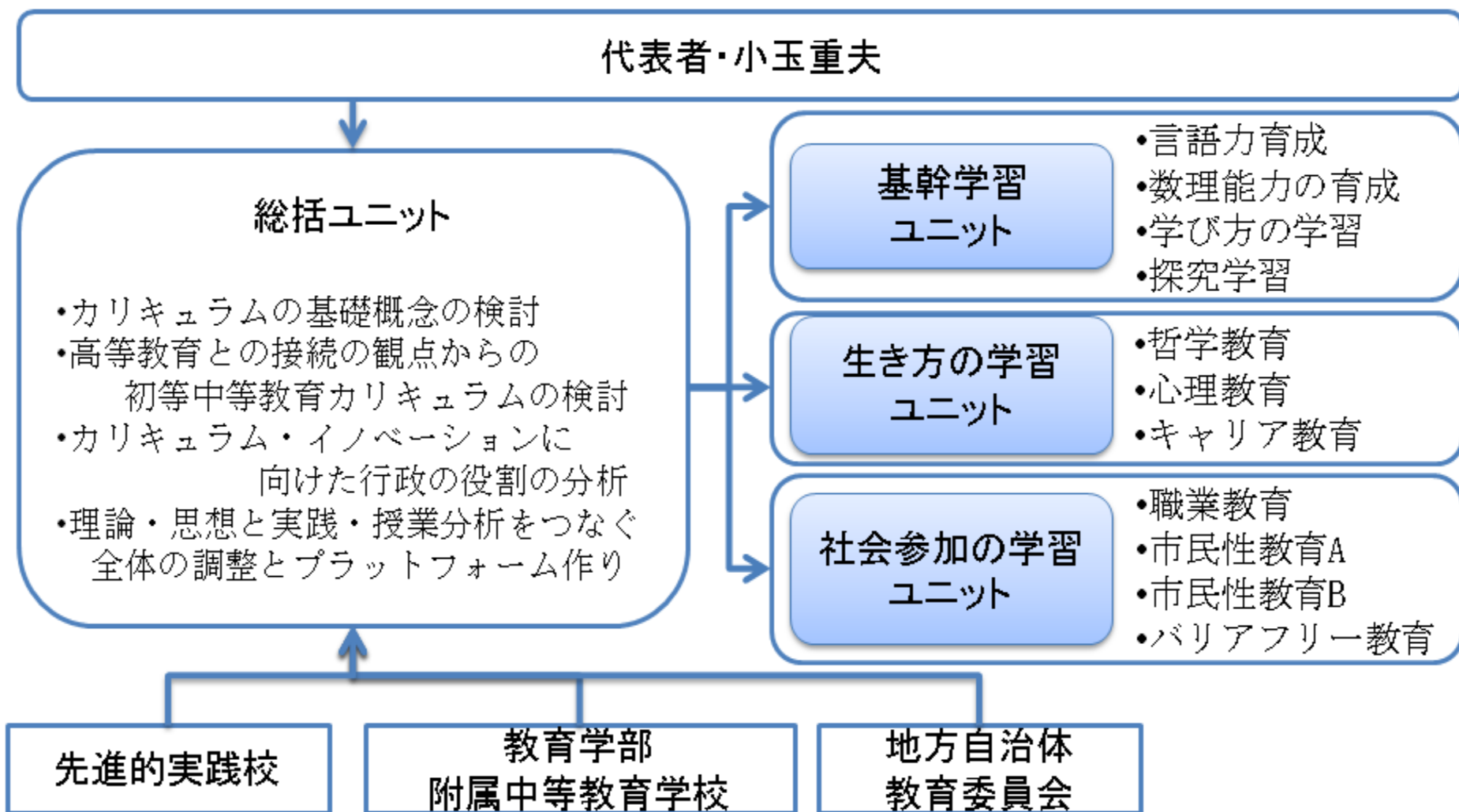
- * Who? (総括ユニット)
- * 誰がカリキュラムを決めるのか
- * Not only 国とアカデミズム
- * → but also 地域、学校(分権化) 本日の大桃・村上報告

- * How? (基幹学習ユニット)
- * どのようにして教える(学ばれる)のか
- * Not only 自立的な学習者が存在することを前提
- * → but also 自立的な学習者の育成それ自体を課題にする(メタ学習、メタ文法への着目) 本日の秋田報告

- * What? (生き方の学習ユニット、社会参加と学習ユニット)
- * 何を教える(学ばれる)のか
- * Not only 個人の能力のシグナルとなり得るような教科の知識
- * → but also 社会や政治とのつながり(レリバンズ)を有する社会に生きる学力 本日の本田報告、中釜報告

研究の組織図(東京大学教育学部学校教育高度化センターHPより)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~c-kodoka/project/kakenkibanA.htm>



附属学校と大学の協働

- * 授業研究のグループがいくつかのテーマごとに形成。
- * 読書会など、附属学校の教員と大学の教員との間での研究会的なものを生みだす触媒になりつつある。
- * 調査研究、実験研究といわれてきたものと、アクションリサーチといわれてきたものとの間の融合が進みつつある。

誰がカリキュラムを決めるのか (大桃・村上報告へのコメント)

- * 大桃・村上報告では、地方発カリキュラム開発の仕掛け人として、教育長や教育委員会の存在の重要性が確認された。教育委員会制度への批判的な論調が強い近年の動向のなかで、きわめて貴重な知見が提示されていると考える。
- * これに対して、首長や一般行政(神奈川県の子チズンシップ教育)、民間(杉並区)が主導性を発揮している例もある。
- * 両者を包括したカリキュラム決定の政治学を掘り下げていく必要性(小玉 2009)
- * 学習指導要領の大綱化(事前規制から事後規制へ)の可能性と条件について。

どのようにして教える(学ばれる)のか (秋田報告へのコメント)

- * 「メタ文法能力」に着目することで、単なるコミュニケーションスキルやコミュニケーション能力に還元され得ない言語力に固有の位相をとらえることが可能になる。(コミュニケーション能力から、コミュニケーションの無力へ:言葉の通じないもの同士の間に通底する言語の共通性)
- * 「リテラシー」を機能主義的な「活用力」としてだけではなく、共に在る存在としての人間に固有の言語力としてとらえ直していく可能性(政治的リテラシーなど)
- * 教科横断的に学ばれる言語能力とは何か(能動的・自律的市民として必要な資質、たとえば上記の政治的リテラシー)

何を教える(学ばれる)のか (本田報告、中釜報告へのコメント)

- * 本田報告:「〈抵抗〉を不可欠の要素としていること、〈適応〉として、特定の職業に就くためだけではなく、経済・社会全体の中での各分野の位置づけに関する俯瞰的・現実的な認識の形成を目的としていること」が重視されているという点では、すべての職業生活、社会生活に通底する面があり、その意味で、自律的・能動的(ないしは批判的)市民の育成というイノベーション科研のモチーフに深く関わっている。
- * 中釜報告:アサーションの教育では、狭義の「心理教育」というよりは、「自他相互尊重の精神に基づいて行うコミュニケーション・自己表現」、「違いに開かれる、多様性、基本的人権の尊重」が重視されている。これも、自立的・能動的市民の育成という課題に密接に関わっている。
- * 問題は、これらをどのように、教育課程に位置づけるのかという点。既存の教科に入れ込むか、新教科を設置するか、教科の統廃合を行うか。

教科再編への視点

- * アカデミズムを起点とした教科編成のやり方を、根本的に見直す(アカデミズムは教科編成のサポーターに徹する)。
- * 中等教育に市民性(シティズンシップ)教育のコア科目的なものを位置づける(「総合的な学習の時間」の改組も一案か)。
- * 学習指導要領の大綱化を視野に入れて、事前規制(プロセスの管理＝何を教えるかを中心としたカリキュラム)から事後規制(結果の管理＝どういう力を育てるかを中心としたカリキュラム)へのシフトを模索する。

文献一覧

船橋一男(2009)「Unit12 カリキュラム開発」木村元・小玉重夫・船橋一男(著)『教育学をつかむ』有斐閣 pp.110-118.

佐藤学(2006)「カリキュラムをデザインする」秋田喜代美・佐藤学(編)『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ pp.67-79.

山崎準二(2009)「第2章 教育課程の概念と構造」山崎準二(編)『教育課程』教師教育テキストシリーズ9 学文社 pp.21-38.

岩崎夏海(2009)『もし高校野球のマネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』ダイヤモンド社

小玉重夫(2003)『シティズンシップの教育思想』白澤社

小玉重夫(2009)「教育改革における遂行性と遂行中断性ー新しい教育政治学の条件ー」日本教育学会『教育学研究』第76巻第4号、2009年12月,pp.14-25

授業の発展的展開としてアサーションを教える

中釜洋子

I：問題意識：子どものためのアサーション・トレーニング

2000 年時：教師が実施者になる、総合的な学習の時間（道徳、学活でも OK）を使う、誰でも使える安全な授業として 12 コマを考案（園田・中釜、2000）

1. 学校における心理教育（開発的カウンセリング）としてそれなりの蓄積がある。
2. 自己表現の力＋相手の発言を受け止める力（コミュニケーション技能～自己防衛）
3. 強い関心を寄せる教師によって導入され、その移動とともに終了しがち



II：研究のねらい：

2012 現在：SC と教師のティームティーチング、教科教育の時間を使って

- (1) 「アサーション」の心理教育として独立させず、授業内容の発展的展開として導入できるものを。
- (2) 教師、もしくはスクールカウンセラーが授業のなかで伝えていくことで、
 - ① 授業内容について生徒が関心をいだき、理解しやすくなること、
 - ② 同時に、アサーションの基本も学べ、生徒のコミュニケーション能力アップにつながることを目指す。
- (3) スクールカウンセラーが教師と共に授業を担うことで
 - ① 広義の心理教育の機能を果たせるようになること、
 - ② 教師との連携をはかりやすくなることを目指す。

III：進捗状況：

改めてアサーションとは？

＝自他相互尊重の精神に基づいて行うコミュニケーション・自己表現のこと

- コミュニケーション・スキル 挨拶、話す、聞く
- アサーティブなものの考え方
- 自己信頼自己尊重と他者信頼他者尊重 違いに開かれる、多様性
- 基本的人権意識

中 2 の教科書からアサーションの視点が深く関わる箇所を抽出し授業案作成 → 試行へ

- (A) 家庭科 実施済み
- (B) 保健体育 2 学期の実施
- (C) 国語
- (D) 公民